

3 資料調査研究プロジェクト

【概要】博物館資源センター 資料係

歴博では、所蔵資料を研究に広く有効に利用できるように、目録情報や画像などの基礎データを調査・整理し、資料目録や資料図録をはじめとする多様な形態で公開することを目的とした資料調査研究プロジェクトを、計画的に進めている。本年度は、考古関係先史遺物資料をプロジェクトにより調査した。

資料担当 澤田 和人

【各プロジェクト】

(1) 「考古関係先史遺物資料」2015～2020年度

(研究代表者 藤尾慎一郎)

1. 目的

本館は設立以来多くの考古資料を収集・保管してきた。これらの資料を広く公開し、展示への利用や共同研究における利用を推進するために館蔵資料の調査・整理・記録作業を行ない、その成果として考古関連では、北海道の縄文時代資料を収集したコレクションの図録である『国立歴史民俗博物館資料図録1 落合計策縄文時代遺物コレクション』を2000年度に刊行し、日本各地出土の瓦の図録である『国立歴史民俗博物館資料図録4 瓦コレクション』を2005年度に刊行した。また、2008年度には本館所蔵の弥生時代の青銅器を扱った『国立歴史民俗博物館資料図録6 弥生青銅器コレクション』を、また2011年度には『国立歴史民俗博物館資料図録8 古墳関連資料』を、2014年度には『国立歴史民俗博物館資料図録11 亀ヶ岡遺跡・是川遺跡縄文時代遺物』を刊行して来た。

本プロジェクトは引き続き、縄文時代・弥生時代・古墳時代の館蔵考古資料の調査、整理をし、基礎的なデータの収集及び実測図の作成等を行い、その成果をまとめた図録を刊行することによって、その資料の内容を公表することが目的である。なかでも歴博所蔵の青森県梶の木遺跡出土土器群は、縄文時代晩期の一括資料として知られており、これらの資料のデータ化は多くの研究に資すると考えられる。

2. 経過

本プロジェクトでは対象となる資料の基礎的なデータを収集および整理し、実測図の作成とトレースを行うため、年度ごとに実施対象を定めている。本年度は昨年度から引き続き、青森県梶の木遺跡出土資料（A-539）の整理作業を行った。

3. 成果

本年度も梶の木遺跡出土の土器・石器の実測図および拓本の作成を中心に整理作業を継続し、また図録に掲載する資料も確定したので、ほぼ全体像を把握できるまでになってきた。また、図版のレイアウトを開始し、一部資料については写真の撮影も開始した。プロジェクト自体は2020年度までだったので、1年延期申請して、21年度に実測と併行しながら製図とレイアウト、写真撮影を行い、2022年3月の刊行をめざす。

4. 研究組織 (◎は研究代表者)

◎藤尾慎一郎	本館研究部・教授	山田 康弘	東京都立大学・教授
村木 二郎	本館研究部・准教授	上野 祥史	本館研究部・准教授
工藤雄一郎	学習院女子大学・准教授		